〔増補下學集上二支體〕鼾（ハナクキ）

〔空穗物語俊蔭二〕むなしくなりなば、おやもいたづらになり給なん、をのが身のうちにおやをやしなはんに、よしなき所あらば、せしたてまつるべし、あしなくばいづくまでかありかん、てなくばなにゝてかこのみかづらのねをもほらん、くちなくばいづこよりかたましゐかよはむ、はらむねなくば、いづくにか心のあらむ、この中にいたづらなる所は、みゝのはたはなのみねなりけり、これを山のわうにせしたてまつると、なみだをながしていふときに、めぐまをぐまあらき心をうしなひて、なみだをおとして、おやこのかなしさをしりて、ふたりのくまこどもを、ひきつれてこの木のうつぼを、この子にゆづりて、ことみねにうつりぬ

鼻頭

〔書言字考節用集五肢體〕鼻頭（ハナノサキ）

〔身體和名集波〕ハナノサキ　鼻頭

鼻孔　鼻毛

〔身體和名集波〕ハナノアナ　鼻孔　ハナゲ　鼻毛

〔諺臍の宿替三〕鼻毛よむ人

作さん、○略中おまはんの眉毛は、せんどからよんでわかつてあるけれど、まだ鼻毛はよまんよつて一ぺんよましておくれ、

人中

〔倭名類聚抄三鼻口〕人中　黄帝内經云、水溝卽人中也、

〔箋注倭名類聚抄二鼻口〕所引蓋明堂文、按甲乙經云、水溝在鼻柱下人中、卽其事也、

〔伊呂波字類抄仁人體〕人中（ニンチウ）　水溝同

〔書言字考節用集五肢體〕人中（ハナミツ）

〔新撰字鏡鼻〕劓魚器反、割、波奈加久、

劓

〔類聚名義抄二鼻〕劓劓魚既反　ハナキル　ハナサク　ハナカケ